

# 暁星中学校・高等学校様

**“迅速・確実に全員に届く”連絡網で  
子どもの「安全」と保護者の「安心」を実現。  
FairCast®—子ども安全連絡網**



FairCast®

## 子ども安全連絡網

暁星中学校・高等学校(学校法人 暁星学園)

所在地: 東京都千代田区富士見1丁目2番地5号  
創立: 1888(明治21)年 2月 1日  
生徒数: 558名(中学) 516名(高校) 平成20年5月現在  
ホームページ: <http://www.gyosei-h.ed.jp>  
概要: カトリック・マリア修道会系の男子校。東京都の中心、九段の丘に位置を占める地上6階地下1階の中・高校舎で、カトリック精神に基づいた教育を行い、中・高を通じて人格の完成をめざすとともに、宗教的情操を豊かに育成することも期している。特に語学教育を重視し、英語・仏語の2ヶ国語が履修できる。

暁星中学校・高等学校は、1888(明治21)年創立の伝統ある私立男子校。同校では、子どもの「安全」と保護者の「安心」をどう守るかについて、個人情報保護やコスト・運用等の面から多数のシステムを比較検討し、NTTデータのFairCast®—子ども安全連絡網(以下、「フェアキャスト」)を採用、2007年4月に導入した。学校運営において、全員に迅速かつ確実に連絡できる手段を得たことのメリットは大きいという。

### 安全対策の一環として、 緊急時の連絡体制整備は当然

「我々は大切なお子様を預かってます。本校ではこれまでも、警備員の24時間配備、アスベスト対応、校舎の耐震工事、避難訓練の実施、防災用備蓄、地域連携など、さまざまな安全対策に取り組んできました。その一環として、緊急時の連絡体制整備を行うのは、当然の流れでした。」と倉橋和昭校長は、「フェアキャスト」導入のきっかけについて語る。「電話連絡網では、情報が最後の人に伝わるまで2時間ほどかかったこともあり、臨時休校などの連絡は、明け方から回し始めても、生徒たちが家を出る時間に間に合わない。これでは使えない」(倉橋校長)という不安を抱えていた。



暁星中学校  
暁星高等学校  
校長 倉橋和昭氏

「できる限り電話連絡網を利用せずに済むようルール決めをしたり、連絡の文章を簡潔にしたり、伝達ルートの一列を短くしたりと工夫をしてきましたが、安全対策として不十分という判断に至り、システム導入の検討を始めました。インターネットで検索すると、一斉連絡サービスはたくさん見つかりましたが、ほとんどがメールだけのサービスでしたね」と、神田信之教頭は当時を思い出しながら話す。

さらに齋藤琢朗事務長は、「メール配信だと、メールを持たない方へのフォローが必

要で、結局二度手間になります。そこで、電話やFAXでも連絡できるサービスに絞り込んで、数社に説明をお願いしました。学校での運用が難しそうだったり、見積もり額1人あたり年間4ケタだったりするのに比べ、『フェアキャスト』はサービス利用料がリーズナブルな点にも好感を持ちました」と語る。

### 全員に伝えたい！ というサービスコンセプトに共感

「フェアキャスト」は、携帯電話やパソコンの電子メールはもちろん、電話(音声)、FAXも利用可能な一斉連絡サービスだ。その特長は、(1)メール・電話(音声)・FAXに一斉連絡できる公平性、(2)低コストの実現(初期導入費不要・年額基本料504円)、(3)送達確認や追いかけ連絡といった確実に届けるための工夫、(4)登録されている個人情報に学校側で閲覧できない秘匿性のしくみ、(5)学校現場で必要十分なシンプル機能—などが、一番の特長は“利用者目線”で生まれたサービスということであろう。

本サービスの考案者であるNTTデータ・サービスイノベーション推進室の住田は、自らのPTA役員経験を通じて、従来の電話連絡網の限界を感じていた。学校現場向けに、安価で誰にも使いやすい仕組みを作りたいという願いから生まれたのが、「フェアキャスト」だった。

「NTTデータさんに連絡すると、住田さんが来校されてサービス立ち上げの経緯や想いを聞かせてくれました。子を持つ親として心をこめて作ったことがよく分かりました。誰一人分け隔てなく伝えたいというコンセプトは、我々の考えにも合致しました」と倉橋校長は語る。

「学校側からは保護者が登録した電話番号やアドレスといった連絡先情報が閲覧できないので、個人情報保護の点でも有効だと感じました。子どもの安全と保護者の安心をどう守るか? コストや運用面なども検討した結果、これがいいという結論に至ったのです」と齋藤事務長は言う。そして、「今や携帯メールはほとんどの保護者がお使いです。実際に『フェアキャスト』を導入すると約8割が携帯メールを登録しています。しかし教育に携わる者として、たとえ少数でもメールを使わない人も無視できません。電話やFAXも利用できるからこそ、全員に伝えられるのは、このサービスの大きな魅力です」と続けた。

### 学校法人内の個人情報保護委員会 での検討を経て、段階的導入を決定

2006年10月下旬、暁星中学校・高等学校では、系列の幼稚園・小学校も加わった学園全体の個人情報保護委員会で「フェアキャスト」導入の検討に着手、12月には中高の教職員だけで試験的に運用を開始した。「学園として初めて個人情報を外部に預けることになるため、安全性・信頼性はもちろん、保護者の理解が得られるかも含め、慎重に検討を重ねました」と倉橋校長。さらに神田教頭が言葉を継ぐ。「中高だけで1,200名もの生徒がいますの



暁星中学校  
暁星高等学校  
教頭入試委員長 神田 信之氏



で、スムーズな導入のためには、まず教職員が理解して説明できるまでシステムに習熟する必要があります」

3学期には、導入を周知する

プリントやIDカード・利用者登録ガイドを中高の保護者に配布、テスト配信も実施し、翌年度となる2007年4月から本格運用を開始した。

「フェアキャスト」では、連絡の受け手である保護者自身が、連絡先のメールアドレス・電話番号・FAX番号をPCや携帯電話からインターネット経由でサーバーに登録する。登録情報の変更も保護者がIDとパスワードで行う。学校は、登録状況の確認や送達確認はできるが連絡先情報は閲覧できないため、個人情報管理の負荷軽減になる。電話番号がクラスに配布されることもないので、個人情報公開に抵抗感がある保護者にも安心して登録してもらえているという。



学校法人暁星学園 校舎

症の専門医を校医としており、すばやく対応できる体制を取っている。先の大流行の直前にも、兆候を見てとった校医から学校に連絡があった。それを受けて学校では、注意を促す情報を「フェアキャスト」で保護者に向けて迅速に配信した。学校から保護者に直接、全員に正確な情報を迅速に伝達できることの有用性が、実績として示されたのだ。

また、荒天時の休校などの連絡も「フェアキャスト」が活用できる場面の1つだ。「中学生や高校生は、親とのコミュニケーションがギクシャクしがちな年頃だけに、台風などの荒天時にも親に相談せず、無理に登校する生徒がいなくても限りません。小学生の子を持つ親には不審者出没などの情報が重きをなしますが、中学・高校ならではの利用場面も多々あります」と倉橋校長は言う。特に、2学期の中間テスト時期に当たる10月は、台風シーズンでもある。刻々と近づく台風の状況を見ながら、テスト開始時間の繰り下げなどを確実に伝達する際にも「フェアキャスト」は威力を発揮しているという。

しばらく運用して初めて分かったのは、保護者の心理的負担が大幅に軽減されたということだ。神田教頭は言う。「電話連絡時代は、連絡網の先頭を務める保護者は気がでなかったようです。内容は正確に伝わったか、いったん連絡を飛ばした人にも後で伝わったかどうか……。ですから導入後は、『うれしい』『助かった』との声が多数聞かれましたね」。年に数回の電話連絡でも、学校が想像する以上に保護者の負担になっていたことが、システム導入によって明らかになった形だ。

一方、「フェアキャスト」は情報を配信する教職員の負担軽減にもつながった。同校の生徒は8時15分までに登校する必要があるため、6時に家を出る遠方の生徒もいる。したがって、当日の連絡は遅くとも6時までにはしておきたい。「フェアキャスト」なら携帯電話からも操作できるので、教職員は早朝にわざわざ学校に来なくても、自宅から配信できるのだ。

もともと、日常生活を送っていて突発的な事故はまず起こらないし、当然そのほうが望ましい。「フェアキャスト」は「万が一に備える保険のようなサービス」



学校法人暁星学園 事務長 齋藤 琢朗氏

(齋藤事務長)であり、だからこそ、導入や運用の負担は軽ければ軽いほどよい。実際、「導入に当たって、負担に感じることは一切ありませんでした。パソコンが使える職員が1人いれば、簡単に使いこなせます」と齋藤事務長は言う。「それよりも、保護者の登録率を上げるためのフォローが重要です。連絡は伝わらなければ意味がありません。我々、事務方の仕事は『伝わる仕組み作り』なのです。そしてその仕組みを教員にうまく活用してもらおうこと。事務方と教員はいわば教育の両輪であり、綿密な連携があってこそ、子どもたちが安心・安全に学習に専念できる環境が整うのです」

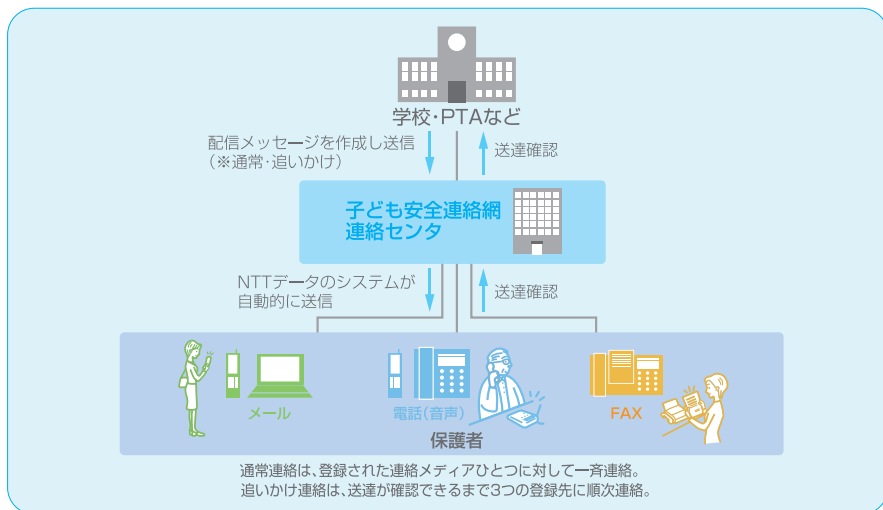
導入直後は、齋藤事務長自ら週に1回は登録率をチェック。未登録や誤登録の家庭には、登録を促すプリントを生徒に持ち帰らせるなど、登録率アップには力を注いだという。そのかいもあって現在、自主的な登録ながら、登録率は98%に達している。

学校は本来、教育の場である。万が一の事件や事故の情報を「どう知らせよう」と頭を悩ませたり、個人情報管理に神経をすり減らしたりしては、本末転倒といえる。「心理的負担が減ったため、教員が本来の教える仕事に集中できる。これが一番の導入メリットです」と倉橋校長は力強く言い切る。そして最後に、「今後は、クラブ活動が大会出場した際の応援ツアーのお知らせなど、ポジティブな利用法も考えたいですね」と、サッカーの強豪としても知られる同校らしいコメントを付け加えた。

## セーフティネットを得たことは、学校だけでなく保護者の安心にもつながった

導入から1年半。利用回数は、追いかけて連絡・通常連絡を含めて年間5回程度だ。

「フェアキャスト」が活躍する最初の機会には、導入直後に訪れた。2007年5月、首都圏を襲ったはしかの大流行。同校では、常日頃から感染症の流行について、行政とも連携し情報収集に努めている他、さらに感染



サービスの流れ

## 株式会社NTTデータ

FairCast®-子ども安全連絡網 事務局

☎0120-059908 受付時間 平日10:00~18:00

〒135-6033 東京都江東区豊洲3-3-3 豊洲センタービル

FAX:03-5546-9392

<http://www.nttdata.co.jp/services/casestudy/> (お客様事例)

FairCast®-子ども安全連絡網は  
2008年度グッドデザイン賞を受賞  
しました。

